

公 訴 事 実

被告人は、堀川秀男（当時65歳）及び同人の妻堀川良子（当時58歳）を殺害して金員を強取しようと企て、令和3年10月29日午前2時30分ころ、東京都墨田区八広2丁目8番1号所在の有限会社ホリカワ機械事務所内において、殺意をもって

第1 上記秀男に対し、その右下腹部、左胸部等を所携の折りたたみナイフ（刃体の長さ8・4センチメートル）で突き刺し、よって、そのころ、同所において、同人を右外腸骨動脈右半部切截により失血死させて殺害し

第2 上記良子に対し、その左脇腹、右側頸部等を上記ナイフで突き刺し、よって、そのころ、同所において、同人を右総頸動脈切截により失血死させて殺害し

た上、上記ホリカワ機械所有の現金12万円を強取したものである。

罪 名 及 び 罰 条

強盗殺人 刑法第240条後段

略 歴

被告人 佐瀬研一（37歳）

昭和61年6月3日 栃木県真岡市で出生
平成16年 地元の高等学校を卒業し、専門学校へ。
平成20年 ホリカワ機械に入社、社長に可愛がってもらい、腕を上げていった。
平成25年 遊びを覚え、給料に不満をもって置き手紙を残してホリカワ機械を辞める。転職先は請負工として工場に送り込まれるもので給料もさして増えず、勤務地も地方の工場を転々とさせられる。
令和2年 仕事が途絶え、退職。工事現場のアルバイトを見つけ、さいたま県八潮市のアパートで暮らす。このとき引越費用等としてサラ金から50万円を借入れる。パチンコに耽り、借金が増え200万円近くになった。
令和3年3月 自転車で走行中、暴力団員が運転する車と接触事故を起こし、修理代100万円を毎月10万円ずつ分割で払うことになる。
7月 アルバイト先の作業中に骨折し、働けなくなり、収入が途絶える。暴力団員への返済もできなくなり、脅されたり暴力を振るわれるようになる。
9月 借金が300万円を超え、サラ金からも借りられず、母美津子に5年ぶりに電話をかけ、お金の工面を頼むが断られる。なんとか10万円を工面し暴力団員に渡すが、「なめているのか」などと怒号され、下腹部を足蹴にされ、10月末までに20万円の返済を約束させられる。
10月初旬 暴力団員に襲われるなどした際の護身用として折り畳みナイフを購入し、常日ごろから携帯するようになる。
10月28日 切羽詰まって10年ぶりにホリカワ機械を訪れ、社長秀男に借金を申し込むが、「恩知らず。帰れ」と言い捨てられ、小銭を投げつけられる。

被害者 堀川秀男（当時65歳）、良子（当時58歳）

昭和53年 秀男は「堀川機械」を興し、大手メーカから機械の部品製造の下請けを受ける仕事を始める。
昭和63年 妻良子と結婚
平成5年 仕事は順調に進み、有限会社ホリカワ機械を設立。従事者は社長を入れて5名。
平成6年 長女智子が発生
平成20年 佐瀬研一（被告人）がホリカワ機械に入社。まじめな働きぶりを高く評価し、長女智子とも兄妹のように仲良く、ホリカワ機械の跡取り候補としても考えていた。



平成25年 佐瀬が突然、会社を辞める。以後、まったく音信不通の状態となる。任せていた仕事が止まり、取引先に多大な損害を生じさせ、経営の危機に陥る。
令和2年 佐瀬が辞めた後新たに雇い入れた従業員らが成長し、ホリカワ機械の危機を何とか乗り越える。
令和3年 長女智子が務めていた会社の先輩と交際を始め、両親の近くに住み始める。翌令和4年3月に入籍・結婚式を予定。

犯行状況（被告人の再現写真）

10月28日午後2時ころ ホリカワ機械から帰る道すがらコンビニに寄り缶チューハイを2缶買って飲んだところ、酔って気が大きくなり、こうなったのは自分の責任ではないと考えるようになった。その時、暴力団員から「あさって20万円取りに行く。ちゃんと用意しておけ、ボケ。」と脅しの電話が入った。ホリカワ機械の事務所にはいつも十数万円程度のまとまった現金があるのを思い出し、忍び込んで盗むことに決める。

28日午後6時ころ ホームセンターに赴き、ドライバー、ペンライト、目出し帽を万引し、四ツ木駅近くの公園で時間を潰した。

翌29日午前2時ころ 駅に止めてあった無施錠の自転車を盗み、荒川を渡ってホリカワ機械に向かい、午前2時30分ころ、ホリカワ機械に到着した。建物の裏手で目出し帽をかぶり、軍手をはめて鍵がかかっている窓を探し、工場内に侵入した。ペンライトを照らしながら1階の事務室へ行き、ドライバーを使って机の引出しをこじ開けるなどしてお金を物色した。一度「ガシャン！」と音を立ててしまったので机の後ろにしゃがんで息をひそめて様子をうかがった。このとき、着ていたパーカーのポケットの中に入れていたナイフを取り出し両手でもって構えた。10分以上潜んでいても誰も現れなかったので、物色を再開した。



机の引き出しのなかに一万円札数枚が入った封筒を発見したとき、突然、電気がついて事務室の入口にパジャマ姿の秀男が立っていた。秀男が「誰だ。」と叫び、こちらの動きを見ていた。目出し帽を被っていたが正体を見破られたらしく、「お前、佐瀬だろ。」と言ってにじり寄ってきた。右手でナイフを握って秀男に刃先を向け、少し怯んだ隙に事務室から出て逃げようとしたが、事務室を出たところですれ違いざまに秀男に目出し帽をはぎ取られてしまい、パニックになった。秀男が「やっぱりお前か」と呆れたように言い放ち、右手首を掴んでナイフを取り上げようとしたので、秀男の腹部を蹴って後方に倒した。秀男はすぐに起き上がり、椅子用の小さな座布団を盾にして向かってきたので、「くるな、来たら刺すぞ。」と言いながら、秀男のお腹のあたりにナイフの刃先を突き出したところ、秀男が覆いかぶるようにのしかかってきて右の下腹あたりにナイフが刺さった。それでも、秀男はなおも「お前本当に刺しやがったな。」などと言って、ス



パナを右手に持って突進してきたので、左胸をめがけて突き刺したところ、秀男の左腕をかすめて左胸に刺さった。すると秀男は崩れるようにしてその場に倒れ動かなくなり、お腹のあたりから大量の血が床に流れ出したので、秀男が死んだことが分かった。

その時、妻良子が「お父さん何しているの？」などと言って1階に降りてきて、事務室の前で血まみれで倒れている秀男を目にして「ぎゃあー！」と大声を出した。そして10年前に行方をくらました自分がいることに気付き、目が合ってさらに叫び声を上げようとしたので、良子の背中を壁に押し付け、軍手をはめた左手で良子の口を塞ぎ、右手にもったナイフで左脇腹を一回突き刺した。そして良子が体をかわして逃げようとしたので背後から押し倒し、床にうつぶせになった良子の背中にも馬乗りとなって、右首筋辺りを1回ナイフで刺したが背中の方に当たってうまく突き刺さらなかったため、口を塞いだ左手を手前にグッと引き寄せて良子の顎を上げ、もう一回首の右側に真横からナイフを突き刺した。良子の体の力が抜け、がっくりと頭を落としたので良子も死んだことが分かった。



その後、洗面所で手に着いた血を洗い流し、工場内に置かれていた従業員の作業着に着替え、現金の入った封筒を掴んでポケットに入れ、荷物をまとめて侵入してきた窓から外に出て、自転車に乗って現場を離れた。

10月29日午前4時 自転車で現場から3kmほど離れたJR平井駅までやってきて、朝帰りの作業員風を装って始発電車に乗車し、埼玉県八潮市のアパートに返ってきた。途中、橋の上から、目出し帽や折り畳みナイフ、血の付いた衣服を旧中川に投げ捨てた。自宅に帰ってきて封筒の中身を確認したら12万円入っていた。

ただお金を盗むだけで強盗するつもりはなく、ましてや社長を殺すつもりもなかったのに、とんでもない事件を起こしてしまい、動揺して動悸が止まらない。「社長と奥さんが出てきたからいけないんだ。なんで出てきたんだ。」「自分は悪くない。悪いのは社長だ。」そう思うとすればするほど自分のしたことの罪の重さに潰されそうになる。

犯行後の状況

発見状況 警察の捜査開始



10月29日の朝7時過ぎ 長女智子は、その日の仕事の後、母良子と結婚式に着るドレスと着物を選びに結婚式場に行く約束をしていたので、実家に電話をしたところ、誰も出なかったので、心配になり実家に駆け付けた。

午前8時 玄関の呼び鈴を鳴らしても誰も出てこないので合鍵で家に入り、2階の住居に行ったが両親はいなかった。急に不安になり、恐る恐る1階の工場に行くと、事務室前で血の海に倒れている父母の無惨な姿を発見。驚愕のあまり大声を上げてその場に崩れるが、すぐに交際相手に電話して実家に来てもらう。交際相手が110番通報し、警察官が現場に臨場。

警察は、物色した跡があり現金を奪われた形跡があるとして強盗殺人事件として捜査本部を設置。怨恨または知り合いによる犯行、あるいは当時頻発していた侵入盗による犯行、その両方の可能性を視野に入れつつ捜査するも、有力な情報が得られないまま捜査は難航。

被告人の動き

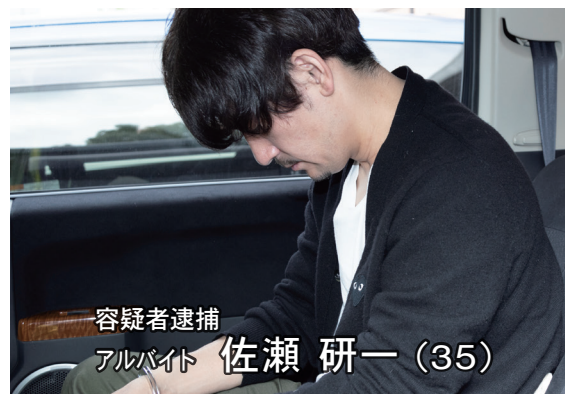
10月30日 暴力団員がお金を取りに来て10万円を渡すが、約束が違くと怒鳴られて、腹や背中を蹴られる。このまま逃げられるわけがないと思いながらも出頭する勇気がなく、そのままアパートに閉じ籠る無為な生活を1月ほど過ごす。また暴力団員がやってくると思うと、そのまま殺して欲しいとも思う。

12月初旬 たまたま高校時代の女の友達（河合美穂）とばったり出会い、お互いの近況を話す。美穂は結婚したが相手のDVで3年ほどで離婚したとのこと。高校時代には好意を持っていたこともあって、その後、交際することに。

令和4年1月 暴力団員から脅されていること、多額の借金があることを美穂に打ち明ける。離婚時にお世話になった弁護士を紹介してもらい、債務整理をすることに。

3月 同居中の美穂が妊娠していることが判明。このまま嘘をついて過ごすわけにはいかないと強い自責の念に駆られる毎日が続く。ようやく弁護士に自分が犯した犯行を打ち明ける。出頭すべきだと伝えられる。弁護士は、最大限不利にならないように守ると。

4月20日 弁護士とともに埼玉県草加警察署に出頭。その後、逮捕され、捜査本部がある向島警察署に移送される。



事件関係者について

被告人の母 佐瀬美津子（55歳）

被告人の研一が5歳の時に、夫と離婚。賭け事が好きで、酒を呑むと暴力を振るう。逃げるようにして離婚。その後、一生懸命働きながら女手一つで研一を育てるが、生活はずっと苦しい。幼少期から研一にほとんど構ってあげられず、研一は一人っきりでいることが多く、友達も少ない。学校では、貧乏のため馬鹿にされ、いじめも受けていた。研一は気が弱い子で虫一匹殺せなかった。

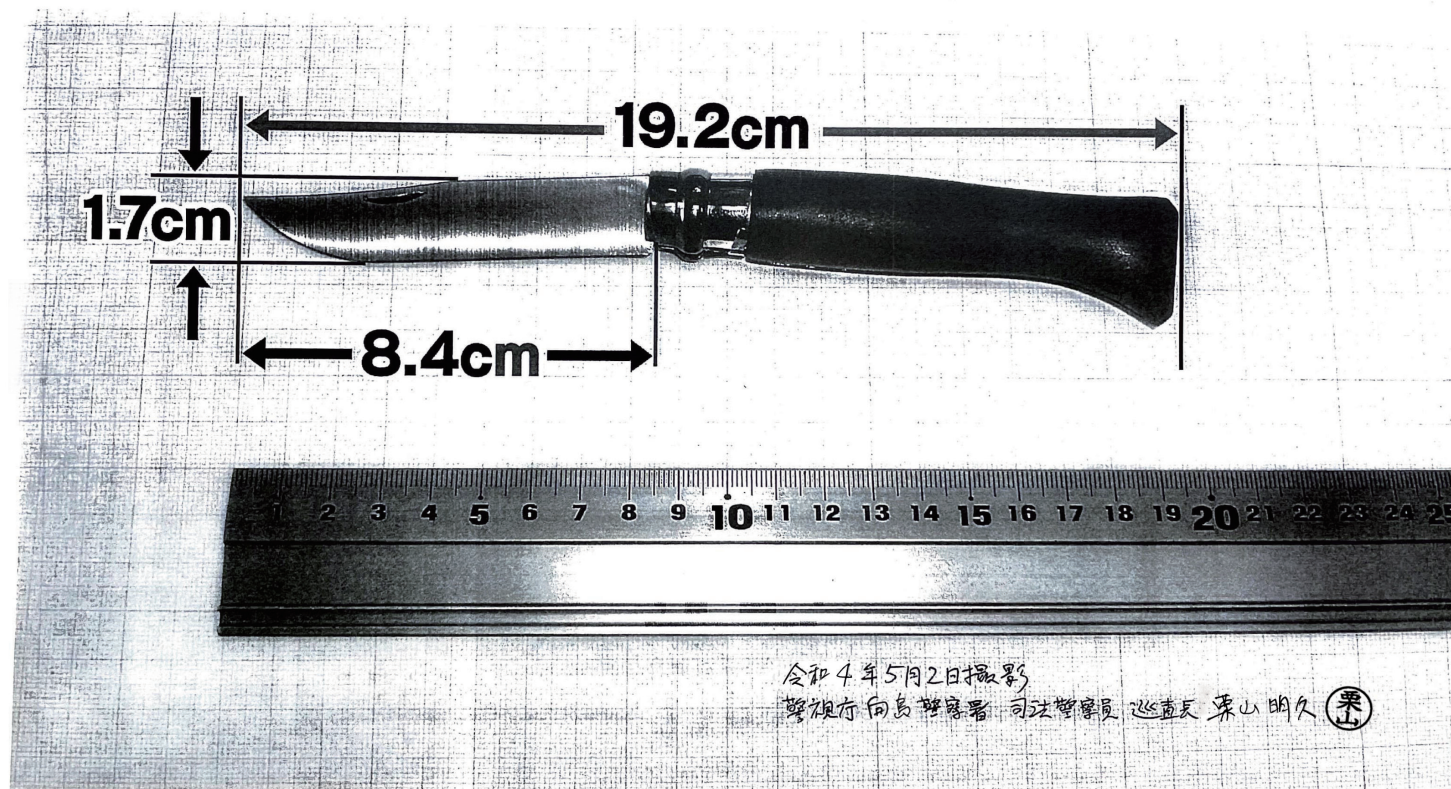
研一が高校を卒業し、専門学校を出て仕事をするようになった後、再婚。しかしやはり再婚相手もDVで離婚。現在は、スーパーの商品運搬、陳列の仕事をしている。お金に余裕がなく、研一の頼みも聞いてあげられなかった。

事件は自分の責任だ。本当に研一に申し訳ない。

被害者の家族写真



令和3年4月 家族3人での最後の旅行。南紀白浜



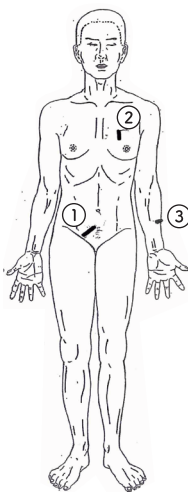
※被告人の供述から、同種同形の折り畳みナイフを入手して撮影したもの

被害者の創と死因

堀川秀男（当時 65 歳）

- ①右下腹部に斜め右下に走る約 7.0 cm の刺切創。
深さ約 8.5 cm。右外腸骨動脈右半部を切截し、
右腸腰筋を刺通、腸骨座骨癒合部を僅かに切
傷して終わる。
- ②左胸部に接着長約 1.7 cm の哆開創。
深さ約 4.0 cm
- ③左上腕部に長約 3.0 cm の切創。

（死因）
右外腸骨動脈右半分切截による失血死



堀川良子（当時 58 歳）

- ①右側頸部に長さ約 2.0 cm の哆開創。深さ約
6.0 cm。右胸鎖乳突筋中央を刺通し、右内頸
部静脈を切截、臨場軟骨直下の気管内に
1.0cm 刺入して終わる。
- ②左脇腹に接着長約 2.0 cm の哆開創。
深さ約 8.0 cm。
- ③背面右肩に上下に伸びる接着約 2.0 cm、脊柱
起立内に留まる創洞長約 8.5 cm の刺創。

（死因）
右総頸動脈切截による失血死

